

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成16年5月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成16年4月分(平成16年3月29日~5月2日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	866	1.44	0.51	↓	12	ヘルパンギーナ	93	0.25	0.08	↑
2	RSウイルス感染症	13	0.03	-	↓	13	麻疹	3	0.01	0.21	
3	咽頭結膜熱	206	0.55	0.09	↗	14	流行性耳下腺炎	227	0.61	0.97	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	420	1.12	0.73	↘	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.07	
5	感染性胃腸炎	4,438	11.83	7.09	↗	16	流行性角結膜炎	128	1.28	1.28	↗
6	水痘	520	1.39	1.68	↘	17	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.00	
7	手足口病	8	0.02	0.13	↘	18	無菌性髄膜炎	3	0.03	0.04	
8	伝染性紅斑	119	0.32	0.23	↗	19	マイコプラズマ肺炎	8	0.08	0.11	
9	突発性発しん	247	0.66	0.73	↗	20	クラミジア肺炎	0	-	0.00	
10	百日咳	8	0.02	0.02		21	成人麻疹	0	-	0.01	
11	風しん	11	0.03	0.04	↑	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↗
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	53	1.96	1.90	↘	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	117	5.57	-	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.44	0.56	↗	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	78	3.71	-	↗
24	尖圭コンジローマ	15	0.56	0.48	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	7	0.33	-	
25	淋菌感染症	27	1.00	0.84	↑	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

インフルエンザ 急減（3月1,459件 4月866件）
 RSウイルス感染症 急減（3月38件 4月13件）
 風しん 急増（3月1件 4月11件）
 ヘルパンギーナ 急増（3月36件 4月93件）
 淋菌感染症 急増（3月10件 4月27件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症 発生なし
 二類感染症 1件発生（腸チフス（疑似症）1件（広島市保健所管内））
 三類感染症 3件発生（腸管出血性大腸菌感染症（O157 2件（広島市保健所管内1件，呉地域保健所管内1件），O26 1件（広島市保健所管内1件））
 四類感染症 3件発生（日本脳炎1件，オウム病1件，A型肝炎1件）
 全数把握五類感染症 4件発生（ウイルス性肝炎1件，後天性免疫不全症候群2件，アメーバ赤痢1件）

3 一般情報

風しん

全国3,000ヶ所の小児科定点医療機関からの報告数は，第18週（平成16年4月26日～5月2日）では218件と，第17週の203件に比べ増加しています。

多発している県は，栃木県，群馬県，福岡県，沖縄県です。

広島県の発生状況は，第17週，第18週共に報告件数は3件で，多発している状況にはありませんが，妊娠初期の女性が風しんに罹患すると，出生児が「先天性風しん症候群」を発生することがありますので注意が必要です。

【風しん】：風しんウイルスに感染してから14～21日の潜伏期間の後，発熱とともに全身に淡い発疹が出現し，通常3日程度で消失するので，一般には「三日ばしか」と言われています。

【先天性風しん症候群】：妊娠初期の女性が風しんに罹患すると，出生児が本疾患を発生することがあります。妊娠2ヶ月以内の女性が風しんに罹患すると，出生児は白内障，先天性の心臓疾患，難聴の2つ以上を持って生まれてくる 경우가多く，妊娠3～5ヶ月に感染した場合でも難聴が多く見られます。

【予防接種】：市町村が実施する定期予防接種を，生後12月～生後90月までは無料（一部有料の市町村もあり）で受けることができます。国の調査によると，1979年（昭和54年）4月2日～1987年（昭和62年）10月1日生まれの人で，現在16歳～24歳の年齢層を中心に，接種率が低いといわれています。

【予防接種にあたり注意すること】：女性の場合は，妊娠していないことが明らかで，接種後最低2ヶ月は，避妊が必要です。妊娠している場合は，予防接種ができないので，人ごみを避け感染を防ぎましょう。

これからの時期に多発する感染症

ヘルパンギーナ

病原体は，コクサッキーウイルスで，症状は，38～40の発熱で発症し，咽頭痛，まれによだれ，頭痛，筋肉痛，発疹を認めることもあります。潜伏期間は2～4日で，予後は良好で解熱すれば2～3日以内に回復します。

感染経路は，飛沫感染で，乳幼児に発生しやすく，6月～8月に必ず流行します。

腸管出血性大腸菌感染症

大腸菌は，家畜や人の腸内に存在し，ほとんどは無害ですが，人に下痢などの消火器症状や，まれに溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こし重篤になる場合があります。この感染症は，O-157が代表的な型ですが，最近，県内でO-26の患者が発生しています。症状は，下痢が主症状で，血便がある場合もあります。感染は，食べ物を介して感染する 경우가多く，食品は衛生的に取り扱うことと，手洗い消毒を十分することが重要です。

重症急性呼吸器症候群（SARS）

現在，WHOが指定する「伝播確認地域」はありません。ただし，中国の北京市と安徽省でSARS患者が発生しています。現在患者は健康監視下にあり，感染は拡大していません。中国から帰国後10日以内に，急な発熱，咳等のSARS様症状があり，ご心配な場合は，医療機関を受診する前に，電話で保健所又は医療機関へ相談してください。